

公益社団法人日本地球惑星科学連合
2021年度(令和3年度)第4回理事会議事録

1. 開催日時 2021年12月7日(火) 13:00-16:10

2. 開催場所 Zoomによるオンライン会議

3. 出席者 理事数 20名
出席理事 16名 (定足数11名 会議成立)

4. 議長 理事 田近 英一

5. 出席役員

理事 田近 英一
理事 川幡 穂高
理事 ウォリス サイモン
理事 小口 千明
理事 高橋 幸弘
理事 道林 克禎
理事 日比谷 紀之
理事 浜野 洋三
理事 阿部 なつ江
理事 沖 大幹
理事 掛川 武
理事 木村 学
理事 中村 昭子
理事 西 弘嗣
理事 村山 泰啓
理事 吉田 尚弘
監事 春山 成子

6. 出席オブザーバー

大気水圏科学セクションバイスプレジデント 東塚 知己
地球人間圏科学セクションプレジデント 鈴木 康弘
固体地球科学セクションプレジデント 田中 聡
地球生命科学セクションプレジデント 遠藤 一佳

地球生命科学セクションバイスプレジデント	磯崎 行雄
地球生命科学セクションバイスプレジデント	小林 憲正
大会運営委員会委員長	和田 浩二
ダイバーシティ推進委員会委員長	坂野井 和代
情報システム委員会委員長	興野 純
学協会長会議議長	林田 佐智子
事務局長	末廣 潔

午後 1 時 00 分、定数に達したので田近英一会長が開会を宣言した。インターネット会議システム Zoom を利用し、審議において参加者全員が互いに適時的確な意見表明ができることを確認した。

7. 審議事項

第 1 号議案 新入会員承認の件

- ・定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を審議し、これを承認した。

第 2 号議案 賛助会員承認の件

- ・定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、株式会社テックオーシャンからの賛助会員入会を審議し、これを承認した。

第 3 号議案 新規委員承認の件

- ・ジャーナル編集委員会の新規委員を承認した。

第 4 号議案 賛助会員制度の件

- ・新たな賛助会員制度について審議した。賛助会員年会費を 30 口 (30 万円) 支払う団体には大会時に一般展示ブースを提供する等、口数に応じて継続的な特典を提供することを計画している。
- ・30 口以上の賛助会員への展示ブース提供は、出展者募集の前にブースの場所を優先的に選択できるなどのサービスを提供する。
- ・検討中の新制度では既存の賛助会員に対するサービスが低下する点もあるので、それについては、2022 年大会は移行期間として従来サービスを提供することを予定している。
- ・基本的に新賛助会員制度を承認した。具体的な特典などの詳細は引き続き検討し微修正する。

3. 報告事項

1. 田近 英一代表理事職務報告

- ・11 月 30 日に開催された学協会長会議の報告があった。連合の活動報告として大会準備報告な

どを行い、つつがなく終了した。

2. 川幡 穂高理事(ジャーナル担当)職務報告

- ・PEPS の投稿・編集・出版状況について、報告があった。
- ・学協会長会議で報告し、51 学協会の合同出版であることを再度強調した。
- ・学協会からレビュー論文を募集することを予定している。
- ・IF3.604 を取得したことを周知するポスターを作成した。AGUなどで活用する予定である。

3. ウォリス理事(グローバル戦略担当)職務報告

○グローバル戦略委員会活動報告について

- ・グローバル戦略委員会の活動報告があった。委員会を開催し以下の件を検討した。
- ・委員会ロゴを作成した。プロモーションビデオでも紹介している。
- ・International Facebook を立ち上げ、コンテンツを充実させている。日本語の Facebook を更新するなどしたら、ホームページの目立つところにバナーを移動する予定である。
- ・MOUを結んでいない海外の組織との連携として、協力関係があることをセッションスコープに入れるなどの案を検討している。MOU提携済みの組織との区別できる方法を検討する。
- ・AGUが提案した 4 つの Global Geoscience Society Task Teams に協力している。ダイバーシティ委員会からも報告がある。AGU Fall Meeting の期間中にも会合を行う。多くの国・団体の参加が予定されている。今後活動を整理し検討してゆく。
- ・Chinese Geoscience Union で田近会長が招待され基調講演を行ったことについて報告があった。来年の JpGU にジョイントセッションが 2 件提案された。
- ・2024 年の AGU との共催に関する議論は進展していないが今後検討する。
- ・AGU Fall Meeting にはバーチャルブースを出展の予定である。ブース出展料の取り決めは、AGU 側の意向により「最低 50% の割引」となっており、毎年交渉している。一方で、JpGU においては、AGU の展示ブースは無料としている。今後、「相互無料」にするよう交渉する予定である。
- ・DFG (ドイツ研究振興協会) 在ポルト賞オンライン授賞式に田近会長、ウォリス委員長、末廣事務局長が出席した。プラットフォームに難があり、トラブルが発生していた。

○IGC (International Geological Congress) の問題について

- ・2024 年に韓国釜山で開催が予定されている International Geological Congress に関する問題について、日本地質学会磯崎行雄会長より経緯と現状について情報共有があった。
- ・韓国での開催提案時に、大韓地質学会から要請があり、日本地質学会がサポートレターや日本国内の巡検コース資料を提供した。この招致への協力もあって、2016 年に韓国開催が決定した。ところが 2021 年夏に韓国の LOC が用意した Web の掲載内容には、日本側から提供した巡検説明資料にあった「Sea of Japan」が「East Sea (Sea of Japan)」に無断で変更されこと、また竹島への巡検企画が掲載されていることが判明した。

- ・これらの2点は日本地質学会が単独で対応すべき事柄を超えていると判断し、JpGUなどの国内組織と相談しながら、慎重に対応を進めることにした。

- ・締結したMoUには、大韓地質学会と日本地質学会との協力は、あくまで両国の法律や規則に準じて、双方の合意のもとで行うと明記されている。現状では、双方の合意がない案件が生じているので、日本地質学会から上記2点の問題を韓国側に伝え、その後一回オンラインで相談した。しかし、意見交換でおわり、解決には至っていない。2回目の話し合いを提案したが、韓国側から明確な回答はまだ来ていない。

- ・磯崎会長から上記の説明を受け、情報交換と以下の議論を行った。

- ・JpGUとしては、日本の地球惑星科学コミュニティ全体に関わる問題であると認識している。

- ・第三者に正しく理解してもらうことが重要である。

- ・日本学術会議 IUGS 分科会から IUGS に正式な抗議をするべきであるという意見があった。

- ・研究者同士のネットワークを壊すのは避けるべきなので、対応の仕方やタイミングには十分注意する必要があるという意見があった。

4. 小口 千明理事(ダイバーシティ担当)職務報告

- ・坂野井委員長より、ダイバーシティ推進委員会の活動報告があった。

- ・パブリックセッションを提案した。

- ・男女共同参画学協会連絡会第5回大規模アンケートの報告があった。

- ・ハラスメントに関するアンケートが予定されているので、メールニュース等で協力を呼び掛ける。

- ・阿部理事より、AGUの呼びかけで始まった4つのGlobal Geoscience Society Task TeamsのうちInclusion and Representation in Geoscienceの活動の報告があった。これまで2回の会合を行った。JpGUにおいてinclusionやrepresentationについてどのように活動をしているのかについて認識を共有させていただきたい。

- ・別のTask TeamsであるIncreasing Public Awareness on ESSでは、他の国・地域の地球惑星科学関連団体にもこの取り組みを拡げるためリストを作成することとなったので、連合にも協力してほしいとの依頼があった。

5. 高橋 幸弘理事(SDGs 担当)職務報告

- ・プロモーションビデオ作成について報告があった。ほぼ完成しており、クレジット表記を問い合わせている。AGU等に出展で活用し、JpGU大会の周知や、プロモーション、寄付集めなどに活用する予定である。

6. 道林 克禎理事(大会展示担当)職務報告

- ・展示について報告があった。

- ・展示場ホールに一般展示を30ブース以上設置する予定である。この他、国際会議場の展示ブースは従来通り設置の予定である。

- ・新賛助会員制度では 30 口以上の賛助会員に特典として展示ブースを提供する。
- ・2 月 1 日に受付開始の予定である。

7. 日比谷 紀之理事(総務担当)職務報告

- ・選挙の進行状況について報告があった。代議員選挙の投票を行い、当選者を確定した。セクションプレジデント選挙は候補者が各セクション 1 名ずつのため投票無しで当選者を確定した。
- ・後援したイベントについて報告があった。

8. 河宮 未知生理事(財務担当)職務報告

- ・河宮理事に代わり掛川理事より財務委員会の活動報告があった。
- ・大会収支の見通しについて説明があった。予算要求に基づくセクション・委員会への経費捻出、システム保守契約への対応を予定している。

9. 浜野 洋三理事(大会運営担当)職務報告

- ・和田委員長より大会準備報告があった。

○概要について

- ・開催セッション数は 230 件で、現在コマ割りを作成中である。
- ・前提とするポリシーは、現地開催であるが、オンラインでも発表・聴講ができるハイブリッド形式とする。ただし、いつでも円滑に完全オンラインに移行可能なように設計している。
- ・ハイブリッド期間は 5 月 22 日(日)から 5 月 27 日(金)、オンラインポスター期間はハイブリッド期間に合わせて 1 日延長し 5 月 29 日(日)から 6 月 3 日(金)までとする。

○会場について

- ・現地会場は、東京ベイ幕張ホールを使用せず、幕張メッセ国際会議場と展示ホール 1 面とする。ただし展示場は 5 月 26 日(木)までとなる。
- ・展示場には特設会場を 2 会場設置する予定である。ユニオンセッション、パブリックセッションのうち希望があったセッションを実施する。セッションで使用しない時間帯は出展団体のセミナーなどに活用する予定である。

○発表について

- ・口頭発表は現地あるいはオンラインでライブでの発表を原則とする。現地ではすべてのセッションに部屋をあてがう。
- ・ポスター発表はすべてオンライン上に掲示する。そのうえで、現地(展示場)にも掲示することができ、現地のハイブリッド期間やオンライン期間におけるコアタイムに発表する。
- ・現地ポスターコアタイムはPM3とするが、これ以外に個人的に指定することを可とするので積極活用を促したい。
- ・オンライン期間のポスターコアタイムは 11:00~13:00 の 2 時間とするが、AGUやEGUとのジョイントセッションのみ、希望すれば時差に配慮して時間帯の変更可能とする。

- ・ハイブリッド開催期間の時間割を同じ曜日のままポスターセッション開催期間にも適用すると、授業等が2週続けてつぶれるなど不都合が想定されるので、曜日を順にずらすことを検討している。
- ・オンライン期間のポスターコアタイムの冒頭では、コンビーナや座長より開始の宣言をしていただきたい。またフラッシュトークなどの企画を実施していただくことを期待する。

○参加登録料について

- ・参加登録料については、現地開催ということで一般会員 22,000 円、院生/教員/シニアは 11,000 円とする。現地には参加せずにオンラインでの参加も可とするが、参加登録料の区別はしない。
- ・この料金設定は、2022 年度の収支見通しとも適合している。
- ・ポストコロナに向けて、会場を借りての現地開催に戻すものの、オンラインも併用した初のハイブリッド大会ということで、来年の大会は実験的な試みとなる。オンラインのみでの参加も増やしたい。参加者に十分な説明をして、大勢の参加をお願いしたい。

○そのほか準備について

- ・COVID-19 対策について、ワクチン接種推奨、不織布マスク推奨、受付時検温、発熱が確認された場合の誘導に派遣看護師雇用などを検討している。
- ・学生優秀発表賞は実施予定である。
- ・現地の学協会の集会利用については会場の提供は可能である。有線 LAN は使用可能、WiFi は不安定の恐れがあるが使用可能、会場 PC は使用不可、Zoom は提供せず各自用意、の方針で検討している。
- ・ハイブリッド期間の昼休憩及び PM3、セッションの空き時間などを利用してイベントが可能であるので今後企画する。表彰式の日時と方式なども今後検討の必要がある。日本地質学会より、露頭紹介企画の打診がある。
- ・参加登録料の支払い開始は 3 月を予定しており、万一オンライン開催に移行する場合も、その後の支払いとなる。
- ・ワクチン接種は、国内国外問わずあくまでも推奨であり、強制はできないということを確認した。
- ・海外からの参加者の必要に応じて、JpGU が受け入れ機関としてレター発行等の対応できるかという質問があった。各国ごとに事情が異なり、また状況が流動的に変わるので、情報を集める必要がある。そのうえで対応の可・不可についても、事務局も交えて検討する。

10. 情報システム委員会活動報告(村山担当理事)

- ・情報システム委員会の活動報告があった。
- ・日本学術会議における、学術データ・試料に関する議論の紹介があった。地球・惑星圏分科会のもとに、学術試料共有小委員会、学術データ共有小委員会が設置されて議論を進めている。
- ・国立国会図書館 Web Archiving Project (WARP) により、JpGU の web サイトの収集が開始された。

原則保存期限を定めず、無期限に保存される。今後予稿アーカイブを対象に含むように依頼することも考えられる。

- ・国際連合本部による「第2回オープンサイエンス国際会議」の紹介があった。
- ・日本学術会議と学協会がそれぞれの役割を果たしていくことが期待されるとの意見があった。

11. 教育検討委員会活動報告(阿部担当理事)

- ・教育検討委員会の活動報告があった。
- ・アースサイエンスウィークジャパン 2021 実施報告があった。国際対応小委員会が協力し、仙台市科学館にて開催した。オンラインイベントに加え、本年は実習も開催した。YouTube でビデオが閲覧できるとの案内があった。
- ・教員免許状更新講習の報告があった。連合でも毎年実施してきたが、政府より発展的解消の連絡があった。免許状更新講習の形式が変わっても、引き続き連合の講習会の形で継続することを検討している。

12. 広報普及委員会活動報告(橘担当理事)

- ・橘理事に代わり田近会長より広報普及委員会の活動報告があった。
- ・高校生のための冬休み講座 2021 として12月25日に「真鍋叔郎博士ノーベル物理学賞受賞記念講演会」を予定している。

13. 環境災害対応委員会報告(奥村理事)

- ・奥村理事に代わり小口理事より環境災害対応委員会の活動報告があった。
- ・パブリックセッションの提案を行った。

14. 顕彰委員会活動報告(中村担当理事)

- ・顕彰委員会の活動報告があった。
- ・三宅賞審査委員会委員長を互選により選任した。これを承認した。
- ・大会時の表彰式については今後検討することとなった。
- ・2022年度フェローおよび三宅賞候補者を募集中であるのでふさわしい方をご推薦いただくよう呼びかけがあった。

議長は以上をもって、すべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(午後16時10分)

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席理事は次に記名・押印する。(捺印欄配布時省略)

2021年12月7日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第4回理事会

出席理事 田近 英一 印

出席理事	川幡	穂高	印
出席理事	ウォリス	サイモン	印
出席理事	小口	千明	印
出席理事	高橋	幸弘	印
出席理事	道林	克禎	印
出席理事	日比谷	紀之	印
出席理事	浜野	洋三	印
出席理事	阿部	なつ江	印
出席理事	沖	大幹	印
出席理事	掛川	武	印
出席理事	木村	学	印
出席理事	中村	昭子	印
出席理事	西	弘嗣	印
出席理事	村山	泰啓	印
出席理事	吉田	尚弘	印
出席監事	春山	成子	印